

2009 年度統計関連学会連合大会について（第三報）

実行委員会委員長 村上征勝（同志社大学）
プログラム委員会委員長 水田正弘（北海道大学）
運営委員会委員長 橋本紀子（関西大学）

2009 年度統計関連学会連合大会につきまして、第一報、第二報に続き、「第三報」をお届けします。本報が本大会に関する最後のご案内となります。

5月11日(月)から6月2日(火)まで講演申込を受け付けました。おかげさまで、企画セッション講演61件(16セッション)、コンペティション講演15件、一般講演237件の申し込みを頂きました。プログラムなど詳細は、<http://www.jfssa.jp/taikai/>をご覧いただければと思います。今後の予定は、以下の通りです。

講演申込	5月11日(月) 9:00 ~ 6月2日(火) 17:00	終了
原稿提出	6月15日(月) 9:00 ~ 7月6日(月) 17:00	終了
事前参加申込	7月16日(木) 9:00 ~ 8月20日(木) 17:00	
開催日程	9月6日(日)~9日(水)	

(9月6日は、チュートリアルセッションと市民講演会のみ)

本報では、連合大会について簡潔にまとめを行い、皆様の便宜をはかりたいと思います。

1. 会場について

大会(9月6日から9日；6日はチュートリアルセッションと市民講演会のみ)は6日が同志社大学今出川キャンパス、7日～9日が同京田辺キャンパスにて開催されます。キャンパスへのアクセスにつきましては、上記Webから「会場」を参照いただくことにより、見ることができます。最寄駅はJR同志社前または近鉄新田辺で前者からは徒歩15分、後者からはバス・タクシーで10分です。大会期間中は近鉄新田辺駅から無料の送迎バスを運行する予定です。

大会の会場について、6日(今出川キャンパス)の市民講演会はクラーク記念館、チュートリアルが明徳館M1, M21となっており、7日～9日(京田辺キャンパス)の大会は夢告館にあるA, B, C, Dの4会場、恵道館にあるP, Q, R, S, Tの5会場からなっています。それぞれの教室番号はA: MK102, B: MK201, C: MK203, D: MK301, P: KD104, Q: KD106, R: KD202, S: KD203, T: KD204となっております。両キャンパスとも、駐車スペースの関係上、自家用車でのご来場はお控え下さい。

懇親会は京都市東山の The Garden Oriental Kyoto(京田辺キャンパスより貸し切りバスで移動)で行われます。

2. 参加申し込みについて

本年も、大会に先立ちまして、事前参加申込をWebページにて受け付けます。大会Webページの「申込」よりお手続き下さい。申込期間は

2009年7月16日（木）9時 から 2009年8月20日（木）17時

で、カード決済と銀行振り込みがご利用いただけます。当日受付より大幅な割引がございますので、ぜひ、事前申込みをご利用下さい。

大会参加費（講演報告集代を含む）、チュートリアルセッション参加費（資料代を含む）、懇親会参加費とも、会員（共催6学会の会員）・学生（会員、非会員を問わず）・学生以外の非会員により参加費が異なります。詳しくはWebページの「大会詳細」をご覧下さい。市民講演会は無料です。

なお、非会員の招待者の方を除き、すべての講演者（一般・企画セッション・コンペティション講演を問わず）の方も参加申込みのお手続きが必要です。よろしくお願ひいたします。

また、本年は、会場が2キャンパスに分かれることから、大会参加費・懇親会参加費の当日受付は京田辺キャンパスでのみ受付いたします。9月6日、今出川キャンパスではチュートリアルセッションの受付のみを行います点、ご了解下さい。

3. 大会プログラムについて

プログラムおよび大会案内は Web 上で公開（参加申込開始以前に公開予定）されるとともに、各学会選出のプログラム委員を通して各学会に通知されます。プログラム冊子は作成致しません。Web ページには、html 版および pdf 版を用意します。プログラムは講演報告集にも掲載されます。なお、講演者および共著者（共同研究者）の所属は講演申し込み時点のものです。

4. 企画セッション一覧

- 1) Non- and semi-parametric inference (9月7日(月) 10:00-12:00 Q会場)
- 2) Model selection (9月7日(月) 13:10-15:10 Q会場)
- 3) Machine learning (9月7日(月) 15:30-17:30 Q会場)
- 4) 感染症対策における計量生物学の貢献 (9月7日(月) 13:10-15:40 A会場)
- 5) Bayes 統計モデルのための計算技法とその応用(日本計算機統計学会) (9月8日(火)
13:10-15:10 P会場)
- 6) スポーツ統計科学の新たな挑戦 (9月8日(火) 10:00-12:00 P会場)
- 7) アジア地域における計算機統計学 - Modern Statistical Methods and Computing (9月
8日(火) 15:30-17:30 Q会場)
- 8) 変わる初等中等教育における統計教育 (9月7日(月) 13:10-15:10 P会場)
- 9) 大学・大学院における統計教育 (9月7日(月) 15:30-17:30 P会場)
- 10) 統計科学、バイオインフォマティクス、システム生物学の統融合的発展 (9月8日(火)
13:10-15:10 A会場)

- 11) 心の中の統計原理 (9月8日(火) 10:00-12:00 Q会場)
- 12) 匿名データ (9月8日(火) 15:30-17:30 P会場)
- 13) 応用統計学会学会賞受賞者講演 (9月8日(火) 15:30-17:30 A会場)
- 14) 日本統計学会会長講演 (9月8日(火) 13:10-15:10 Q会場)
- 15) 日本計量生物学会奨励賞受賞者講演 (9月8日(火) 10:00-12:00 A会場)
- 16) 日本計量生物学会賞受賞者講演および 2009 年度学会賞授与式 (9月7日(月)
16:00-17:30 A会場)

5. コンペティション

今年度も、研究活動を開始して日の浅い会員のより質の高い研究発表の奨励を目的としてコンペティションを実施します。

評価基準:研究内容のみならず、発表者各自が十分に工夫をしていかにうまく内容を伝えられたか、質問に的確に答えられたかといった発表の仕方も含め、全体として素晴らしいプレゼンテーションになっているかどうかを評価の対象とします。

審査方法:大会におけるコンペティション講演の審査は、当日の口頭発表に対しての数名の審査員とコンペティション講演セッションの出席者の一般審査との総合評価で行います。セッションの参加者すべてに投票資格がありますので、本企画の趣旨をご理解の上、奮ってご投票ください。A, B, Cの3段階(A:受賞に値する, B:受賞としてもよい, C:受賞に値しない)で各報告者を評価していただきます。ただし、講演者ならびに共著者はその講演への投票は出来ません。審査は記名投票で行い、無記名投票は無効です。投票結果に基づき、プログラム委員会で選考します。

最優秀報告者 1 名、優秀報告者(原則として)3 名を選考し、大会中(懇親会場において懇親会の直前を予定)の表彰式にて受賞者を発表して表彰しますので、ぜひこちらにもご出席ください。

6. チュートリアルセッション

日時: 2009年9月6日(日) 13:00~15:45

会場: 同志社大学今出川キャンパス 明徳館

受付開始時間と場所: 12:30より、明徳館 正面中央階段横

テーマ1: ノンパラメトリック回帰入門

講演時間: 13:00-15:45

会場: 明徳館 M21

講師: 竹澤邦夫(中央農業総合研究センター)

テーマ 2: DSGE モデルと VAR モデルの計量分析—MCMC のマクロ金融政策への応用—

講演時間: 13:00-15:45

会場: 明徳館 M1

講師: 渡部敏明(一橋大学), 藤原一平(日本銀行金融研究所)

事前参加受付は、2009年度統計関連学会連合大会の上記トップページから「申込」に進んで Web 上で手続きができます(7月16日(木)9時~8月20日(木)17時). あらかじめ参加費を納めていただく場合は、割引が受けられます. 学生には特に大幅な割引があります. 当日参加も受け付けます. 当日受付の場合、参加費(資料代含む)は、会員(共催、協賛の6学会の会員)3,000円、学生(会員・非会員を問わず)3,000円、学生以外の非会員6,000円です. テーマは2つありますが、同じ時間帯に実施されますので、どちらか一方のテーマをお選びください. なお、途中でもう一方のテーマへ移動されても追加料金はかかりません.

7. 市民講演会のご案内

今年の市民講演会では、以下のテーマで 4 名の先生方にご講演をお願いすることにしました。多くの方々のご参加をお待ちしております。

日時: 2009 年 9 月 6 日(日) 16:00~18:30

場所: 同志社大学 今出川キャンパス

参加費: 無料

テーマ: 学力調査と統計 ~全国学力・学習状況調査の現状と統計的側面からの検討

講演者:

1) 藤井 宣彰 (国立教育政策研究所 教育課程研究センター 研究開発部)

「全国学力・学習状況調査の概要」

2) 盛永 俊弘 (京都府向日市立西ノ岡中学校)

「全国学力・学習状況調査の意義と活用法」

3) 土屋 隆裕 (統計数理研究所)

「全国学力・学習状況調査の分析と活用」

4) 安野 史子 (国立教育政策研究所 教育課程研究センター 基礎研究部)

「大規模調査の今後の展望」

企画・司会:

林 篤裕 (九州大学 高等教育開発推進センター)

開催趣旨:

国際的な学力調査として、経済協力開発機構(OECD)の実施している学習達成度調査(PISA)や国際教育達成度評価学会(IEA)が実施している国際数学・理科教育動向調査(TIMSS)の結果から、近年日本の子ども達の学力が低下しているのではないかという問題が指

摘されています。この流れを受けて、平成19年4月から文部科学省では、「全国学力・学習状況調査」を開始し、今年4月には3回目が実施されました。この調査は小学校6年生と中学校3年生の全員を対象とするもので「悉皆調査」と呼ばれます。当初から調査の設計や、得られたデータをどのように教育現場にフィードバックするか等、種々のフェーズに対して議論があり、現在でも多くの国民が関心を持っている調査でもあります。

今回の市民講演会では、この「全国学力・学習状況調査」を素材に統計的な側面から、学力調査の役割や課題、活用方法について議論を深めてもらおうと講演会を企画しました。学力調査にまつわる設計から調査実施、解析に至るまでの種々の作業について、最新の研究成果を識者や専門家に解り易く講演していただきます。多くの方々のご来場をお待ちしております。ただし、席に限りがありますので、場合によっては入場をお断りすることがあることを予めご了承下さい。

なお、先日お送りした広報ポスターについて、事務局の連絡・確認不足から、掲載のご講演者の一部に間違いがございました。ご講演者と皆様にお詫び申し上げます。ポスターには後日送付しました修正シールを当該部分にお貼りいただきたくお願いする次第です。お手数をおかけしますが、何卒ご容赦いただきますようよろしくお願いします。

8. おわりに

本年度は、新型インフルエンザが発生し、統計関連学会連合に所属するいくつかの学会の活動もその影響を受けました。この第三報を書いている現時点でも、感染者数が増え、いくつかの学校が休校となっています。また、本連合に関係している多くの方が、その専門知識を活用して対応に関与しているとも聞いております。本連合大会の成果が、社会に貢献できること、大会が無事に開催できることを大会関係者、一同で願っております。